

グループワーク①：治療の導入と経過について

討議の課題

がん患者さんに対する意思決定、方針決定における課題を共有します。

- 身体症状に加え、皆さんの立場から見て、この症例の強みは何ですか？
- また解決すべき問題・ポイントは何でしょうか？

14

グループワーク②へ向けた検討のための追加情報

入院後（退院調整開始時点）の身体症状 (ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)

- 痛みは薬物療法・放射線治療で軽快している
- ただし、医療用麻薬の定期内服、屯用が必要。
- 上肢は外固定によって痛みはないが機能障害がある（手を添える程度の使用）
- 脊髄不全麻痺が残存（立ち上がり、歩行は補助が必要）
- 倦怠感があり、疲れやすい。夜はまずまず眠れている

入院後（退院調整開始時点）のADL

- 排泄：膀胱直腸障害があり自立は困難
- 食事：5割程度は摂取可能
- 移動：車いす移乗には介助が必要（自宅の寝室は2階）
- 保清：準備をすれば洗面、歯磨きは可能、入浴は介助が必要
- 更衣：一部介助が必要
- 整容：ひげ剃りは電動ひげ剃りで可能、爪切りは介助が必要

今後の想定される予後は2~3か月、1か月後に消化管狭窄症状のため、経口内服が難しくなるが、意識状態は保たれている。

15